



「こんにちは 市長です」

2月10日号

テレビのスイッチを押すと、たまたま日テレだった。『スッキリ』という朝の番組、「あれ！」見たことのある顔があった。語り口調も昔と変わらず雄弁、「えっ、石川和男さん？」プレートを見たらあの石川和男さんだった。彼は小泉さんが総理の時代、国の役人をしていた。どういう訳か私に関心を持っていたでちよくちよく役所に現れていた。「橋本総理のときに特区構想があったんですが何も進まなかった。小泉内閣の目玉、構造改革特区構想で経済産業省から内閣府に呼ばれたわけです。何かしたい、太田でやってもらいたいんです」。

国と地方の関係はというと国が上で地方が下、というのが常識。ところが彼は同僚を連れて向こうから頻りに現れるのだ。「石川さん、お住まいは？世田谷ですか、なら『特区』は世田谷でやってもらえばいいじゃないですか」と暗に断るのだが「いやいや、太田で、市長のところまでぜひ！」と粘ってくる。あの頃「芸術とスポーツと英語」、これらを学校とは別に子どもたちに充実させたいと思っていた。ものづくりは飛び抜けているけど文化がねえ、とよく言われていた。芸術学校とスポーツ学校は始めることができた、残りは英語。「英語で授業やるとか、無理ですよ」「いやいや、常識でないことをやってしまうのが『特区』。地方で始めることは画期的です。やりましょうよ」。彼が来始めて半年くらいで『特区』申請（GKA）をすることになった。その後、彼は役人を辞めて経済評論家に、一緒のお二人は衆議院議員になった。

この間、内閣府に行ったときK審議官から「清水さん、知っていますよ」と言われた。「ひょっとして、この人経済産業省の方？」石川さんたちが話題にしていたのかも…。